

ワインバーグ「がんの生物学」第2刷(2010年11月1日発行)

正誤表

(2012年3月17日現在)

誤記と正記の差異に下線をしてあります。

発音のストレス(アクセント)は本書ではゴチックになっていますが、見落としやすいので本表ではゴチックに加え下線をしてあります。

頁		誤記	正記
4	訳注	顕性, <u>不</u> 顕性	顕性, <u>潜</u> 性
42	図 2.19(A) 図中左 図中右	<u>単</u> クローン性 Ig <u>多</u> クローン性 Ig (M 突起)	<u>多</u> クローン性 Ig <u>単</u> クローン性 Ig (M 突起)
106	表 4.2 右	60(H, K, N) 55(H, K, N)	60(H, K, <u>N</u>) 55(H, K, <u>N</u>)
184	*1	RO と略す.	RO <u>S</u> と略す.
185	*1	RaG12V を指す.	Ra <u>s</u> G12V を指す.
191	*	ダイアシルグ <u>ラ</u> イセロール	ダイアシルグ <u>リ</u> セロール
256	1 段目 3 行 1 段目 5 行	時間経過を <u>教</u> えるため 経過時間を <u>教</u> える	時間経過を <u>数</u> えるため 経過時間を <u>数</u> える
365	3 段目 4 行	変株細胞は <u>variants</u> 抗腫瘍	変株細胞 <u>variants</u> は抗腫瘍
409	図 11.9 と 11.10	初期→中期腺腫→後期	初期 <u>腺腫</u> →中期 <u>線腫</u> →後期 <u>線腫</u>
426	図 11.22(A) 解説 5 行 図 11.22(B)	<u>すべて</u> ではなく散在する 最初の診断 2 回目の診断	散在する <u>一部</u> の <u>双生児</u> の最初の患者の診断 2 番目の患者の診断
428	表 11.1 最上部 1 行 表 11.1 脚注 1 行	「ras 様 <u>ras-like</u> 」 ^a 「myc 様 <u>myc-like</u> 」 ^a 「ras 様 <u>ras-like</u> 」および「myc 様 <u>myc-like</u> 」	「ras 様」 ^a 「myc 様」 ^a 「ras 様」および「myc 様」
431	図 11.24(A) 囲み 4 段目	<u>…生殖細胞を含むすべての細胞が…</u>	<u>…は, 配偶子に…</u>
467	*2	複数形は vill	複数形は villi
632	*2	任務に <u>集加</u> する	任務に <u>参加</u> する
719	1 段目 3-4 行	免疫能が抑制された患者の研究が, <u>免疫監視機構</u> がさまざまなウイルス で引き起こされる腫瘍の出現を妨げ る責を担っている, …	免疫能を抑制された患者の研究は, さまざまなウイルスで引き起こされ る腫瘍の出現を妨げる <u>役</u> を <u>免疫監視</u> <u>機構</u> が担っている, …
719	2 段目 3-4 行	免疫系の細胞性機能分野によって媒 介される.	免疫応答の中でも, 細胞性免疫の機 能が担っている.
720	1 段目 2 行	それよりさらに不明瞭なままである.	依然としてもっと不明瞭である.

720	7 段目 1 行	腫瘍進展の各段階について、	腫瘍進展の各段階を、
721	2 段目 2 行	<u>そのことが</u> 、がんに対する…	<u>だからといって</u> 、がんに対する…
721	2 段目 2-3 行	開発する <u>のを妨げる</u> わけでは	開発する <u>ことが出来ない</u> わけでは
737	1 段目 1 行	サイドバー <u>6.1</u> 参照	サイドバー <u>16.1</u> 参照
737	5 段目 7 行	(図 16.1)0	(図 16.10)
791	2 段目 2 行	情報でもさらに <u>指示</u> される。	情報でもさらに <u>支持</u> される。